

〔 自 2025 年 4 月 1 日
至 2026 年 3 月 31 日 〕

I. 航空科学博物館 2025 年度事業計画

一昨年度より、改正博物館法が施行され、博物館は、新たな役割が規定され、社会教育施設として、また、文化施設として、多様な主体との連携を行ない、社会的・地域的な課題への対応を求められるようになりました。

当館は、「更なる機能強化」が進む成田空港に隣接し、空港との相互連携による、一体的・持続的発展が目指されている空港圏に位置しております。当館の使命、「我が国の航空発展への寄与」を果たすためにも、改正博物館法の趣旨である、まちづくり、観光、福祉、国際交流等をつうじた、地域の活力の向上を念頭に入れ、将来の航空人材の育成等の事業をつうじて、「新しい成田空港構想」が目指す、地域と空港が相互に連携し発展していく好循環に貢献をまいります。

日本初の航空専門の博物館として、「航空宇宙技術遺産」である、YS-11 試作 1 号機をはじめとした、「民間航空の博物館」としての貴重な展示物等の資産を磨き上げ、多様性を尊重のうえ、様々な方々との絆を強固にし、当館は、様々な方々から愛され必要とされるような博物館を目指して、求められる使命を確実に果たしてまいります。

1. 基本とする取り組み姿勢

2025 年度は、以下の 3 点を事業取り組みの基本姿勢とします。

- (1) 博物館に対する社会的要請の多様化・高度化を踏まえて、お客様に安全で安心できる環境を提供し、当館の使命を果たすべく、多様性を尊重のうえ、提供価値の創造と磨き上げを行います。
- (2) 関係者の方々との絆を強固にし、顧客志向と脱自前主義の精神を堅持し、効率的な業務運営と効果的なプロモーション等により、コロナ禍前の水準の来館者数の確保と増収を目指します。
- (3) 地域と空港との相互連携による一体的・持続的発展のため、空港・航空業界と空港周辺地域との懸け橋として、文化観光、情報発信拠点となり、空港圏の繁栄に貢献します。

- (1) 博物館に対する社会的要請の多様化・高度化を踏まえて、お客様に安全で安心できる環境を提供し、当館の使命を果たすべく、多様性を尊重のうえ、提供価値の創造と磨き上げを行います。

① 当館の使命の遂行

定款に掲げる「航空に関する科学知識の啓発」について、博物館法の要件を満たした登録博物館としての品格を保ち、多様性を尊重のうえ、日本初の航空専門の博物館としての使命を遂行してまいります。

当館ならではの強みを活かした展示やイベント等、お客様の探求心を喚起し、体験を通じて感

動や喜びを感じていただけるような新たな提供価値を生み出し、たゆまぬ努力で未来を切り拓いてまいります。

今年度は、より価値のある学びと体験を提供するため、本館屋上を一般開放し、空港と離着陸する飛行機の迫力を間近で体感できる環境を提供できるよう、必要な整備を実施します。

② 施設・設備・展示物の老朽化対策

老朽化対策については、関係者の方々のお力添えをいただきながら、5ヶ年中期計画に基づき対策を進めておりますが、今年度は、計画期間を、2029年度・開館40周年までローリングさせ、引き続き進捗させてまいります。また、展示物についても、それぞれの価値を再評価し、老朽化対策を深度化させてまいります。

老朽化対策は、お客様の安全・安心と当館の運営の根幹に関わる最重要案件であり、将来に亘って安定した館運営ができるよう、着実に対策を講じてまいります。

(2) 関係者の方々との絆を強固にし、顧客志向と脱自前主義の精神を堅持し、効率的な業務運営と効果的なプロモーション等により、コロナ禍前の水準の来館者数の確保と増収を目指します。

① 来館者数の目標

今年度の来館者数は、関係者の方々からの誘客に向けた数々の支援を得て、コロナ禍前の水準である20万人を確保することを目指します。

敷地内の「空飛ぶ学び舎ラボ」との連携や、町のスカイパークしばやまの観光拠点化と歩みを一にし、商談会やWeb等による発信等、インバウンドのお客様を含めて、一層の誘客に力を入れて、新たな人流を創出してまいります。

② 業務改善意識の徹底及び収入の最大化

顧客志向・ガバナンスの強化の観点から、脱自前主義を更に推進し、働き方改革と、「やめる・とめる・なくす・たくす」の観点から、働きやすさと業務効率化のためのシステムの導入等、既存業務のあり方を見直してまいります。併せて、当館の将来を担う、柔軟な発想とチャレンジ精神を有する、広い視野をもった人材を育成するため、職員教育を更に充実してまいります。

また、コスト意識を引き続き徹底させ、収益事業の増収策を講じると共に、昨今の物価上昇に伴う運営コストの増加や今後の持続的な館運営の観点から、入館料の見直し等を検討します。

③ お客様満足度の維持向上

社会に開かれた重要な公共スペースとして、人とモノとの間に起こる創造的なコミュニケーションを提供する場としての、心の充足・ウェルビーイングをはじめ、お客様の満足度の向上を追求し、期待を超えるサービスの提供を目指します。

また、旅行サイト等における高い評価を維持向上させるべく、アンケートの活用を強化をはじめ、お客様の声に真摯に耳を傾けながら、社会包摂の観点から、誰一人取り残さず、多様なお客様にとって価値のある場所、記憶に残るミュージアムとして、多くの方々に喜ばれる館運営を目指します。

す。

- (3) 地域と空港との相互連携による一体的・持続的発展のため、空港・航空業界と空港周辺地域との懸け橋として、文化観光、情報発信拠点となり、空港圏の繁栄に貢献します。

① 航空業界の将来の担い手不足解消への貢献

成田空港の更なる機能強化が進む中、将来懸念される航空業界の担い手不足に対して、空港・航空業界の関係者、教育機関の関係者、地域の関係者の方々等との連携により、当館の展示やイベント等を通じて、成田空港・航空業界で働くことの魅力を伝える情報発信拠点として貢献してまいります。

また、町と「空飛ぶ学び舎ラボ」との効果的な連携により、「航空教育の聖地化」のブランディングを進め、空港圏の人口増の視点を持ちながら、教育環境に恵まれた地域づくりの推進に貢献します。

② 観光を活用した地域づくりへの貢献

成田空港に隣接した観光拠点として、地域の関係者、空港関係者の方々等との連携を通じて、「スカイパークしばやま」を核とし、地域の観光資源や産品等を活かして、地域の広域な観光を促進する視点を持ち、観光を活用した持続的発展が可能な、未来創造型の地域づくりに貢献してまいります。

博物館法が改正され、地域と協力し地域の活力を向上させることが求められる環境下、博物館の地域文化振興面の役割を再認識し、産官学民、社会教育施設・文化施設・商業施設・市民団体等、地域の様々な主体との連携を強化すると共に、地域住民のニーズに積極的に応え、地域にとって当館があってよかったと思われるような、地域の誇りとなれるような、地域に根差した施策の推進を図ります。

③ SDGsの取り組みへの貢献

博物館は、開かれた公明正大な存在として、また、文化をつなぐミュージアム・心の豊かさの拠り所として、単なる文化教育施設というハコにとどまらない様々な社会的・地域的な課題を解決するための資源としての役割が求められてきております。こどもの居場所づくり等を含め、多様性が尊重され、誰もが活躍できる社会の実現が求められる中、関係者の方々と連携し、SDGs教育プログラムの造成をはじめ、オール千葉で目指すSDGsの活動や、「サステナブル NRT2050」による、脱炭素化社会の実現等を目指す関係者の方々の取り組み等に、積極的に協力してまいります。

2 具体的施策

(1) 公益事業

① 行事計画（別紙参照）

i 企画展示

今年度は、羽田航空博物館プロジェクト(HASM)の協力を得て、「羽田航空博物館展(仮称)」として、羽田空港旧ターミナルに係るパネル展示や、同組織が所有する、航空機模型・エアライングッズ等、成田空港が開港する以前の国際航空の歴史を辿れる展示を開催します。また、航空愛好者等、外部の方々との連携を通じた展示の開催も検討します。

ii 航空講話

航空に関する啓発活動として、パイロット・客室乗務員・グランドスタッフ・航空管制官や、航空物流・航空給油等、現場で働く空港スタッフの生の声を聴くことのできる機会を、更に広く設けてまいります。将来の航空人材の育成のため、青少年をメインターゲットにして、それぞれの職業の意義ややりがいなどの紹介をします。

iii 関係者とのコラボレーション企画

【空港・航空分野の企画】

「集まれ！成田空港車輜」、「ANA 空港おしごと体験教室」、「JGS グランドハンドリング教室」等のイベントを通じて、将来の空港業務の担い手となる子供たちを含め、来館者に楽しんでいただきながら、業務の内容や成田空港・航空業界で働くことの魅力を伝えます。

また、現下の課題となっている航空人材の確保の一助とするため、航空系の進路に関する情報を提供する機会、「夢へのフライトプラン～航空学校説明会～」を、より関係者の方々との協力を密に、空の日記念事業の一環として、内容を充実させて開催します。

【科学関連分野の企画】

日本大学生産工学部とのコラボイベント「飛行機が飛ぶ原理で風車を回せ！」を実施することで、航空科学の普及に貢献します。また、(一財)航空交通管制協会と日本無線(株)の協力を得てラジオ製作を通じ航空無線の仕組みを学ぶ「ラジオ製作教室」を行います。

上記以外にも、前年度同様、関係者の方々との新規イベントや展示については、将来の航空人材の育成、社会貢献・地域貢献の意義を踏まえて、随時、弾力的に共同企画により、年間行事に織り込んでまいります

iv 多客期におけるイベントの開催

ゴールデンウィークや夏休み等の多客期には、折り紙飛行機教室やゴム動力飛行機製作教室等のイベントを開催し、より多くのお客様の来館につなげてまいります。

v 地域イベントへの協力

空港に隣接した観光拠点として、空の日関連行事や「はにわ祭」「サイクルツーリズム」等、芝山町をはじめとした空港圏・地域で開催されるイベントに積極的に協力し、地域の賑わい創出に貢献します。特に、「スカイパークしばやま」の観光拠点化による、空港南部地区への誘客に力を入れてまいります。

② 展示整備

i YS-11 試作1号機の永続的保存

昨年度、日本航空宇宙学会から「航空宇宙技術遺産」の認定を受けたことを契機として、保存・展示のあり方を見直し、有識者からの答申を踏まえ、今後、短期的に、当機の現状の把握を行い、劣化が進むことを防ぎます。また、把握した結果を踏まえて、修理・復元のポリシー、および、展示・活用のポリシーを策定し、修理・復元を進め、より効果的な展示・活用を行っていくこととします。

今年度は、関係資料を収集し、腐食やクラック、構造的にどこか壊れそうなどころがないか、当機の現状の把握を行います。当館における一大プロジェクトであり、一丸となって事業推進をはかってまいります。

ii 展示の魅力向上・維持管理

館内の展示物については、展示ケース・照明・内装などのリニューアルを進め、展示点数の増加や収蔵展示物との定期的な入れ替えなど、魅力を高める施策を進めます。特に、東棟1階ホワイエの展示について、現状のドクターヘリのモックアップや客席シート等を移設し、収蔵庫にあるコレクションを公開します。

引き続き、来館者の安全、安心を念頭に展示物全体の点検を実施し、必要な修繕や適宜の洗浄等を行いながら、民間航空の関係者や博物館の専門機関の協力も得て、展示を更に見栄え良くすることを念頭に置き、展示の魅力を向上させ、適切な維持管理に努めます。

また、近年増加しているインバウンドのお客様に対しては、案内や展示解説の多言語化を進めます。

iii 収蔵物の再整理

当館の収蔵物は、模型・航空部品・資料等、多岐に亘り、現下、分類、収納、目録の作成を進めておりますが、博物館法の改正を受け、デジタルアーカイブを含め、2年後の登録博物館の再申請に向け、収蔵庫やライブラリーの資料整理や選別を行い、博物館の専門機関の協力も得て、資料保管のあり方を見直し、目録作成をスムーズに進められるようにします。

また、コスト面も踏まえ、収蔵物の再評価を行い、貸出や譲渡または廃棄を含めて取捨選択を図りながら、適切に整理・管理する手法を構築してまいります。新規の収蔵物については、寄贈等の受入れを含めて、価値の高いものを収集、収蔵してまいります。

ライブラリーについては、来館者の方々の利用動向や利用実績を見ながら、より魅力あるライブ

ラーとすべく、収蔵図書・資料の管理を効率化し、子供連れのお客様を含め多くの方々に喜ばれる空間にしていまいります。

③ その他

i 友の会の充実

当館の賛助会的な位置づけである友の会は、当館の良き理解者であり、当館の運営にとって大切であるとの認識から、会員数の拡大を目指すべく、会員との交流を緊密にするため、各種見学会の開催など会員の方々の満足度を向上させる企画を充実させ、随時実施してまいります。

(2) 収益事業

① 収益事業の充実

公益事業を補完する収入を確保するため、引き続き効率的な運営を徹底し、売上の増加とコストの削減に努めます。また、成田空港の機能強化に併せ進んでいる、地域ビジネスの開発に積極的に協力すると共に、脱自前主義・オープンイノベーションによる外部との共創に力点を置いてまいります。

② 物販店舗の運営

日々の売り上げデータやトレンド等から売れ筋動向を分析し、一般のお客様から航空関係者に至るまで、幅広い層のニーズに対応した売店として運営してまいります。昨年度末で、空港施設の整備のため閉店した、第1ターミナルビル5F「バイプレーン」の代替の施策については、関係者の方々の協力を得て検討を行うと共に、本館1F「ミュージアムショップ」について、商品の拡充や新たなオリジナル商品の開発に力を注ぎます。また、ジャンク市については、魅力を向上させ、増収を図るため、商材の仕入れにも力を注ぎます。

③ レストランの運営

成田空港が一望でき、迫力ある航空機の離着陸を展望できる好立地を活かし、関係者の方々の協力も得ながら、当店ならではの「オリジナルメニュー」や季節に応じた新規メニューの開発を行い、お客様の回転率向上等、利用の促進と収支の改善に努めます。また、関係者の方々の協力を得て、ディナータイムの特別運営等、レストランの新たな活用法を開拓します。

④ 催事店舗等による収益の確保

キッチンカーや軽食コーナー、クラフトコーナーを本館入口付近や体験館に設置し、お客様に喜んでいただきながら収益に貢献できる催事店舗を誘致します。また、有料体験装置や自動販売機についても売り上げ動向を見ながら新規の導入や効果的な運用を図ります。

(3) 広報プロモーション活動

① 全般

広報プロモーション活動全般について、今年度もコストを抑えながらに最大限の効果を発揮できるように努めてまいります。また、マーケティングについて、効果的な手法を取り入れてまいります。

② ホームページ・X・インスタグラムの活用

当館のホームページを使った情報発信について、よりお客様に伝わりやすい媒体となるよう、コンテンツを更に充実させてまいります。

また、Xに加えて、インスタグラムによる適時の情報発信を行い、来館者数増と当館のプレゼンス向上につながる広報プロモーションに力を入れてまいります。

③ メディアへの訴求

TV・映画・雑誌等、メディアからの取材や撮影利用を促進するため、関係者の方々と協力して、当館の魅力をメディア関係者に積極的に伝え、収益と共に知名度を向上させ誘客につなげてまいります。メディアに訴求する際には、空港圏、「スカイパークしばやま」に所在する博物館であることの自覚を忘れることなく、当館のみならず地域全体をプロモーションする意識で対応します。

④ 地域の観光拠点・情報発信拠点としての貢献

日本らしさ・日本の自然や文化に触れられる「スカイパークしばやま」の発展に、空港周辺の目的地化を目指し、体験型自然公園である「グリーンポートエコ・アグリパーク」や「芝山水辺の里」との連携を強化し、貢献してまいります。さらに、町制 70 周年を迎える芝山町の観光資源である「埴輪」や、町の観光交流拠点である「ヒストリーパークしばやま」等との連携、近隣市町・エリアとの連携も進めてまいります。

また、空港圏の観光資源の情報発信拠点としての機能を果たし、空港圏各市町の観光案内、ポスターの掲示・ちらしの配布等、広域的な観光開発の観点から、地域の賑わい創出と観光を活用した地域づくりに貢献します。

⑤ 旅行・観光事業者及び交通事業者との連携

旅行事業者や県内観光施設の運営事業者の方々との連携を、成田空港活用協議会やちばプロモーション協議会、千葉県観光物産協会等の枠組みにより強化し、魅力あるツアーの造成やお客様の広域の回遊性を高め、公共交通機関の利用者利便も図りながら、一層の誘客に積極的に努めます。

また、会議体の誘致など、「ユニーク・ベニュー」としてのプロモーションをはじめ、従来の思考様式に囚われない自由な発想から、新たな利用形態として、様々な方々からの当館の利用を促進さ

せてまいります。

⑥ 他の博物館等との連携

博物館協会等の業界団体や他の博物館・文化施設との交流促進を図り、博物館としてのあるべき姿を常に意識しながら、より一層、来館者・お客様に喜ばれる博物館運営に努めてまいります。特に、芝山町内に所在する「芝山町立芝山古墳・はこわ博物館」及び「成田空港 空と大地の歴史館」をはじめ、空港圏における博物館については、プロモーションやキャンペーン等を共同で実施する等、お互いに協力関係を深め、地域における誘客効果を高めます。また、国内の航空系博物館についても、効果的な展示物の保存や活用を図るため、さらに交流と連携を深めてまいります。

また、当館が加盟する、「日本博物館協会」、「全国科学博物館協議会」、「千葉県博物館協議会」、「航空イノベーション推進協議会(AIDA)」の枠組みにより、他館の運用手法を学び、文化庁や千葉県が進める博物館のあり方の見直し等の進捗を踏まえながら、職員・スタッフのあり方や、博物館運営のあり方を検討し、当館の知的・人的・物的資源の生産性の向上と組織力の底上げを図ります。

特に、今年度は、当館の定款の目的に向けた事業を、より一層、推進できるよう、改正博物館法が定める職員研修の充実について、これまで実施する機会がなかった、博物館のあり方についての職員研修を実施します。